

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701021		
法人名	社会福祉法人 順和会		
事業所名	グループホーム 陽なたぼっこ		
所在地	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽4463番地		
自己評価作成日	平成27年1月10日	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に囲まれ雄大な阿蘇山の麓に陽なたぼっこはあります。部屋の中からも野鳥や猿等の小動物がみられ、秋になると色鮮やかな紅葉が利用者の心を和やかにしてくれます。又、山間部に位置し夜になると数百万と言う星々が夜空を埋め尽くし大自然の営みを十二分に味わうことができます。

当事業所は、介護支援専門員・看護師・介護福祉士を配置。特別養護老人ホームに併設し、母体の管理栄養士・理学療法士からの指導も迅速に受けられる体制となっています。利用者の重度化が進むなか、母体施設との連携を十分図りながら日々の生活支援を行っています。又、庭師の資格を持つ職員も配置しており、庭木の剪定や花壇作りなどの趣味活動の拡大も図られ、満足できるサービスを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームを囲む山々には尾根に雪が積もり、古くから繰り返されてきた冬には冬の暮らしが地域の人々に息づいている。職員は此処での入居者の生活が今までと大きく変わることなく、「普通の家庭のような普通の暮らし」が出来る環境を追求しながら支援にあたっている。この一年は新たな入居者や職員を迎えたことで、個々の気持ちに寄り添い、安心して暮らせる家のような存在として力を結集している。男性職員の入職は入居者にとってもますます心強いものとなり、揃って出かけようどん外食は好評であり、今後地域へ出る機会を更に増やしていきたいとしている。リビングで好きなコーヒーを飲みながら新聞を広げる方、得意の園芸で所狭しと部屋中に植物を飾る方など一人ひとりのこだわりや生き方が尊重されている光景は、入居者主導のホームの姿勢を表しているようであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「ぬくもりと安心の福祉」を基に事業所独自で5項目作成。職員各自に理念を携帯させ周知にあたっている。外部へは、広報誌や運営推進会議・施設内に掲示することで地域へ発信している。	職員は法人の志を受け継いだ5項目からなる事業所理念を常に携帯し、より身近に感じながらケアにあたっている。「入居者に優しく普通の家庭のような普通の暮らし」をコンセプトに日々の生活を支え、所長は新たに入職した職員が同じ方向性を持って業務にあたるよう指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事活動などの際には、地域資源を十分活用できるよう配慮している。又、地域行事へもできる限り利用者が参加。併設の特別養護老人ホームやデイサービス利用者の方とのつながりも大事にしている。	今年度は更に入居者が地域へ出る機会を作り、人々と交流する場が設けられている。村の文化祭で知人との再会を喜んだり、「うどん外食」では、地元の店を利用して殆どの入居者が参加し、体調が心配される方については、無理がないよう別の場所で体験してもらうなど心ある取り組みをしている。法人行事で併設施設の利用者と顔を合わせ、地域ボランティアや保育園児との交流が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・実習・慰問・ボランティアの受け入れを活用し知識の伝達に努めている。又、広報しへも認知症のみならず健康管理への情報も掲載し持ちえる力の発信に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況報告をプロジェクターを活用。又、利用者への会議への参加を促し日頃の思い等を話して頂く場を設けた。又、家族からのサービスに対する不満(残高不足の連絡等)も伺えサービスの向上に努めている。	会議には地域代表者の他、前年に引き続きJ A女性の会や消防団の参加協力が得られている。また、家族代表者や入居者も同席し、個人の預かり金について残高などを早めに知らせて欲しいといった意見には、記録に残し早急な対応をとっている。参加者の地域情報は、入居者の外出の機会を後押ししている。	議事録はホーム玄関に開示し家族や外部者に発信しているが、目を通す方は少ないようである。今後は家族の集まる機会に口頭で説明することで発言の機会を持ち意見の拡充に繋げていきたい。また、会議前などに入居者の様子を見てもらうことで、より活動報告が身近なものになると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所としては、運営推進会議や訪問調査時を活用。書類等の管理も家族と連絡を取り合いながら不備がないよう対応している。又、法人や併設事業所等も活用し行政との連携を深められるようにしている。	小さな行政区の中で法人の果たすべき役割は大きく、包括と連携して独居世帯の情報の共有や、高齢者福祉のネットワーク作りに尽力している。入居者への認定調査には職員が立会い、現状を見てもらいながら、担当者へ適切な対応を心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施し職員への知識の周知を図っている。直接的な拘束のみならずスピーチロックや施錠など間接的な部分へも目を配り拘束をしないケアへの取り組みを実践できるよう指導している。	ケア会議の中に身体拘束の勉強会の時間を設け、担当職員が資料作りに関わることでそれぞれの経験年数などを考慮して必要な内容を絞り、作成している。2ユニット全ての入居者に日々関わる職員は、一人ひとりの状況や個性を尊重し、入居者に分かりやすい言葉を投げかけ対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し職員への知識の周知を図っている。又、職員のストレスへも配慮し健康管理や精神状態の把握にも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し理解を深め事案が発生する場合には速やかに対応できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書及び重要事項説明書にて説明を行っている。改定の際には、書面での説明を行い十分な理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当制を活用し利用者・家族のニーズ把握に努めている。ケア会議への参加を働きかけている。要望等は、運営推進会議や広報誌・会議の場で発信し運営に反映できるよう努めている。	家族の面会時には入居者の現状を伝えながら、忌憚のない意見をもらうよう心がけ、ケア会議への参加も同時に促している。家族からは特に何も無いが、外に出かけて欲しいといった要望が出されており、本年度の外出支援にも繋がったようである。入居者の買い物に行きたいとの要望に、隣町のショッピングセンターに出かけ、衣類を見たり日用品を購入するなど買い物を楽しめたようである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体会議・幹部会議・ケア会議・業務改善会議を設置。職員からの意見等を事業所のみならず法人全体や代表者へも発信できる環境作りに努めている。日頃から意見の出しやすい雰囲気づくりにこころがけている。	法人の全体会議で各事業所の現状を把握し、横の連携を密にしながら退院直後の入居者に理学療法士の支援を受けるなど協力が得られている。職員はケア会議や日々の業務中に気づいた点をその都度出し合いケアに反映させており、入居者や周りを不快にする「忙しい」の一言を口にしないよう各自が心して支援にあたっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者の「職員を大切にすることが利用者を大切にすることに繋がる」との考えから、資格取得への支援や資格手当・休暇を含めた業務改善・処遇改善へは積極的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部開催の研修会への参加を促し職員個々のスキルアップに努めている。又、経験が浅い職員への指導にも適切に対応できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会議に出席しネットワークの構築や情報の共有等に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り本人の思いを引き出せるように配慮し初期の情報収集に努めている。認知力により訴えが困難な方に対しては、表情や仕草などの細かい変化へも気を配りにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や不安に対しての聞き取りを適切に行えるよう努めている。又、事業所としての考え方も説明しできる事とできない事への理解も得られるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を踏まえ担当ケアマネージャー等の意見も考慮した上でサービスを開始するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴や状態をふまえ、利用者・職員が共同で生活できる事を念頭に支援している。家事活動や農作業を職員から尋ねる場も造り互いで共同で暮らしていく環境を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当から近況報告を手紙と言う形で行っている。日々の様子から困っている事なども沿え家族にもできる限り状況が把握して頂けるようにしている。困難な事例が発生した場合には、スムーズに相談でき家族・職員双方で問題解決を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の老人会・美容院・催し物等、入居後においても引き続き利用できるように配慮している。ソーメン流しやクリスマス・忘年会に家族の参加を呼びかけ数家族参加あり良い関係が継続できている。又、昔ながらの食べ物(蕎麦がき、干し柿等)なども食事、おやつメニュー取り込んでいる。	入居後も地域や個人との縁が途切れないよう、地元老人会や行きつけの美容院からの送迎支援を得て、入居者がこれまでと変わらぬ関係や人と触れ合う機会を大切にしている。また、昔から続く正月の餅つきやどんどやは年始めの馴染みの行事であり、入居者の笑顔あふれる写真が便りの中でも紹介されている。これまで培ってきた台所仕事や園芸など個々の得意分野も継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のニーズや状態等を把握し日課の中に役割を持っていただくよう配慮している。日々の家事活動や趣味を活かした取組みなど利用者同士で協力しあう環境作りに取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設事業所への入所等により契約が終了した場合にも事業所同士で連携を取り面会等への支援を行っている。又、家族からの契約終了等に関する相談も常時行えるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が主となり個々のニーズの把握に努めている。嗜好品・消耗品・衣料品・趣味活動品等要望に応じ対応している。ニーズに対して困難なケースへ対しては、家族に対し協力を依頼し対応している。	職員は入居者との日ごろの関わりからの確かなニーズを収集しプランに反映させている。家族も毎月の広報誌や現状報告、面会時の様子から入居者の「今」を確認し、カンファレンスへの参加で職員と共に必要な支援内容を提案している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係機関や家族からの情報収集や直接利用者から出来るだけ多くの情報を得られるよう努めている。又、可能な限り書面での情報を依頼。個々の記録として保存し常時確認できるよう管理している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別にケース記録、個人表を管理し日々の状況等の把握に努めている。又、職員同士で情報の共有ができるよう日誌・申し送りノート・ケース記録等を整備している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者及び担当職員で評価から介護計画原案を作成。家族への参加を手紙にて依頼し会議を開催。家族及び職員からの意見を聴取した上で介護計画を作成している。	本人の意向を基に家族や職員の声を検討してプランを立案している。本年度は数名の退所に伴い、新たに入居者を迎えるにあたって利用していた法人事業所からの情報をプランに活かすと共に、馴染みの職員が顔を見に訪れるなど継続した支援が実践されている。計画作成担当者は入居者に無理のない支援を掲げると共に、家族に分かりやすく説明し協力を仰いでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録を整備しており日々の状況等の記録を行っている。又、申し送りノートも活用する事で全職員が情報を共有できサービスの実践もスムーズに行えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅への外出が困難な利用者については、故郷訪問と言う形でサービスを導入。家族との連携をとる事で実践に繋がった。又、緊急時や専門科への受診もできる限り対応できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体や老人会。又、設備関係や食品業者等幅広く地域資源を活用するようにしている。行事活動についてもできる限り身近にある資源を活用する事で地域とのつながりも継続できるように配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期健診や専門科への受診は、本人及び家族と相談し行い、事業所が対応困難なニーズへ対しての受診希望には家族の協力も依頼。できる限りニーズに対応できるよう支援している。受診結果は家族へ連絡している。	入居時に緊急時対応の面からかかりつけ医の説明を行い、現在は全員が協力医による往診を受けている。他科受診についてはホーム内でも柔軟に対応しているが、遠方や総合病院などについては家族の対応としている。受診結果については共有を図る他、入居者・家族が安心して過ごせる環境に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	オンコール体制を整え、看護職員との連携が図れるよう努めている。又、母体施設看護職員との連携も密に行い、利用者の状況に合わせた対応が常にとれるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	上村医院及び立野病院との連携が図られている。立野病院主催の会議へも母体施設看護職員が参加しており、常にスムーズな連携がとれるよう意見交換等も実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、事前指定書及び重度化指針を説明している。事業所としてできる事への理解を求め意向の確認を行っている。又、意向については随時変更されることとしている。事例が発生した場合には、上村医院・立野病院・法人・事業所全者で支援できる体制を作っている。	縁あってホームを利用された入居者・家族の思いに寄り添いながら、法人医療機関との連携や看取り、緊急時対応の研修を重ね出来る最良の支援に努めている。入居時に事前指定書、重度化に関する指針の説明を行い、本人・家族の意向を確認しているが、気持ちの変動もあることからその都度話し合っていくことを申し添えている。	直近でホーム単独の看護師による研修会も予定されている。医師や栄養士、PTなど、今後も法人医療機関との連携を図りながら、最良の日々を過ごせるホームである事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や外部研修を活用。又、日々の業務の中で看護師から現場職員へ指導している。母体施設は、酸素・アンビューバック・吸引機・AEDも常備し緊急時への初期対応も可能な体制となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体施設及び事業所で訓練を実施。又、地域消防団の活動へも参加し情報交換も行っている。母体施設と行政との連携も常時図られている。	6月の母体施設と合同の総合訓練や9月にはホーム単独での訓練が実施されている。総合訓練後の反省では、屋内消火栓や非常通報装置の確認不足が拳がり、次回に生かすことが共有されている。備蓄については法人栄養部で管理されている。	今後も火災・自然災害時にいかに入居者の安全確保をしていくかを話し合い、有事に備えていかれることに期待したい。また、地域消防団との情報交をも継続し、連携を深めて頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を実施し人として基本的な姿勢で対応できるよう努めている。排泄・入浴時は勿論のこと共有空間での声かけ、言葉使い等にも配慮し指導に当たっている。	職員は基本理念に掲げられた項目を心にとめ、個別支援時に限らず、リビングなどの共有空間での声かけにも十分配慮することや、「忙しい」を口にしないで支援にあたる事を所長は指導している。また、研修会や会議の中で守秘義務の徹底が指導され、家族へも個人情報の使用にあたっては了承が得られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の必需品や嗜好品等、担当が中心となり希望時に購入している。又、病院受診や外出希望までできる限り幅広く利用者の要望に応じられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課に添ってはいるが、利用者の状況に合わせて対応している。要望があれば花の手入れや買い物支援も一緒に行っている。希望があり数名の方へ毎朝仏前支援も実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品・染め粉・洋服・散髪等、できる限り利用者の要望に応じられるよう努めている。必需品も担当が確認し継続できるように購入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	希望食をとりいれている。(誕生食やパン希望の方への提供)又、畑で野菜を栽培し時期の食材を提供している。利用者も栽培から収穫・調理まで関わり食への楽しみとなっている。又、食事の一連の流れも利用者の方ができる部分(食材切り、皿並べ、食物分け等)に参加して頂いている。お正月用の茶碗使用、職員手造りの杯を使用し楽しんでいただいた。	法人の厨房で主菜などは調理されているが、主食を作ったり希望メニューの日を設けるなどホーム内でも調理を行うことで、入居者の食への関わりを持っている。テーブルやお盆拭き、具材切りやつぎ分けをはじめ、訪問当日も「今日のおかずはおいしか〜!」「このイチゴは阿蘇のどこでできたらか!」など、味の評価や産地を気にかける方など、会話そのものが食の取り組みであることを感じる光景であった。うどん外食や季節によっては刺身の提供も楽しみの一つになっている。	献立を作成する法人の管理栄養士もホームに足を運び、入居者の食事の様子を確認し好みや希望を聞き取り、今後に生かそうとする場面が確認された。今後も楽しい食事支援の継続に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の管理栄養士の指導を受け、利用者の状態に応じた管理に努めている。食事形態も普通食からやわらか食まで幅広く提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回歯科往診を受けており、先生からの指導を受け利用者に応じた支援を行っている。通常使用する歯ブラシから歯間ブラシ・義歯用ブラシ・ポリデント等を活用。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状況や要望により、ポータブルトイレを活用。日中はトイレを基本とした支援を行っている。介助を要する利用者に対しては、時間誘導や表情等の仕草を確認しスムーズに排泄できるよう努めている。	阿蘇という立地もあるが入居者が冬場も安全にゆっくりと排泄できるよう、広いトイレ内もエアコンにより温かく管理されている。また、季節の草花なども洗面台に飾り、手洗い時もホッと和めるような配慮である。日中はトイレでの排泄を基本とし、入居者のタイミングを見逃さないように職員は表情や連携を持ってサポートしている。夜間使用するポータブルトイレは、毎朝の洗浄と週2回のハイター消毒を行い清潔に管理されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師が主となり便秘へ対しての知識習得を図り、できる限り薬に頼らない支援を目指している。生活支援で解消できない場合には、主治医へ相談し下剤等を調整し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状況に応じた対応ができるよう一般浴と機械浴が設置してある。毎日、入浴ができるよう職員側も準備しておりできる限り希望に添えるよう努めている。薔薇風呂や柚湯等、思考に富んだ入浴も行っている。	身体状況に応じ一般浴と機械浴で対応しており、安全や入居者にとって寛ぎの時間となるよう所長は「急がなくていい！ゆっくり支援して欲しい」と指導している。毎日入浴できる体制や準備を整え、週2～3回の支援が行われており、バラやゆず湯など変わり湯の取り組みは季節感や入居者の思いを引き出すきっかけにも繋がっているようである。	変わり湯の支援は入居者にとって新鮮であり、会話の引き出しにも効を奏していると思われる。今後は職員のアイデアを生かした新しい変わり湯や、告知のポスターなどを掲示することで、更に楽しみや来訪した家族との会話も広がると思われる。取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動を取り入れ夜間の安眠支援を行っている。活動中においても、利用者の思いや表情等を確認し休息を促し無理のない生活が行えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を活用し関わる職員への周知を図っている。服薬介助へは、準備から服薬まで重ね重ね6人の職員が関わり誤薬防止に努めている。服薬後は、様子観察を行い看護師へ報告し適切に対応できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動や農作業・裏庭の手入れや裁縫等、利用者の状態に応じて役割が形成されており、職員は作業がスムーズに行えるよう支援している。その事により、日々の生活の中に達成感が生まれ楽しみのひとつとなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ちょっとした買い物希望へは、コメリ・コンビニ等への外出支援を実施。自宅への外出が困難な方へ対しては、家族への協力を依頼し「故郷訪問」と言う形で要望に応じている。又、地域のボランティアや地域住民の協力も得る事で老人会や美容院への外出も行う事ができた。	入居者の高齢化などにより全員揃って外出する機会は少なくなっているが、「可能な限り外出を支援したい！」という、職員の思いにより、様々な検討を重ね、個別支援も充実しながら取り組んでいることが聞き取りからも確認された。商店や文化祭など地域資源を活かした外出や、紅葉・バラ見学の他、ぶどう刈りを楽しんだ後には、大切な方へぶどう発送したことで安心されたようである。また、家族の協力による外食や正月の帰省、外泊も行われ入居者に何よりの時間となっている。広い法人敷地内の散歩は、阿蘇山が噴火して以降は以前より少なくなっているようである。	樹木剪定など自然環境の整備に精通する新職員の入職により、今後は敷地内の散歩や散策の機会が安全に展開されていくと思われる。降灰が落ち着いたら控えがちであった身近な外出の機会を以前同様持っていたきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾の下、管理が可能な方は自己管理して頂いている。ヤクルトの配達や嗜好品の購入等も自らが支払いをされており「買う」楽しみを大切に頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや利用者からの発信等、自由に行って頂いている。しかし、家族の希望で制限がある方へ対しては注意し対応している。手紙等についても自由に行って頂き要望へは随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒へ繋がる障害物を排除し自由に動ける空間作りに取り組んでいる。又、季節感も損なわないよう時期にあった花を飾るようにしている。職員、利用者手づくりのカレンダーは好評である。又、リビングへ可能な範囲で好みの椅子等も持ち込んでいただいている。場所が山間部となり空調管理も行い、心地よく過ごして頂けるように努めている。	1階・2階の両ユニットを全職員で関わっており、気づきや提案を有意義に取り入れながら、入居者にとって過ごしやすい空間作りが行われている。リビングのレイアウトは状態に応じて検討するなど、認知症高齢者の特性を踏まえながら、居心地だけではなく、安全面にも配慮した共用空間に努めていることが聞き取りや現場からも確認された。また、所長は職員自身も大切な環境であること、優しさのある支援について指導を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の利用者の目が気にならないよう、談話室や会議室を交流の場として開放。周りを気にせずゆっくり過ごして頂けるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ品物の持込をお願いしている。花や鉢、写真等自由に飾られている。その為、居室一つ一つが全く違った環境となりその人にあった生活空間ができている。	所長はそれぞれが安心して過ごせる居室となるよう、「何でも生活に必要な物を持ち込んでください！」と、入居時やその後も機会あるごとに伝えている。日用品に限らず、テレビや冷蔵庫などの家電の他、観葉植物や家族の写真に囲まれた部屋は、本人と共に訪問した家族にとっても寛げる空間である。庭先に続く1階居室や季節によって変わる樹木の彩を眺めることの出来る2階居室、双方共に、陽当たり良好で心安らぐものである。	入居年数が長くなった方々もあり、今後は居室前の飾り物や暖簾など見直しを行うことも必要と思われる。取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの作りになっており、不自由なく生活できる環境となっている。又、状態に合わせ車椅子や歩行器・移動用バー等の福祉用具も活用し不安なく安全に生活できるよう支援している。		